

イベントだけで終わらせない「1/2成人式」の在り方について

～特別活動と総合的な学習の時間双方のねらいを達成するために～

藤上 真弓

“The Midpoint to Full Age Ceremony” as More Than Just an Event:
An attempt to achieve the aims in special activities and the period of integrated study

FUJIKAMI Mayumi
(Received August 3, 2015)

キーワード：キャリア教育、キャリア発達、特別活動、総合的な学習の時間、1/2成人式

はじめに

「平成27年度山口県教育推進の手引き」によると、知・徳・体の調和のとれた教育の推進に関する施策の1つとして、キャリア教育の推進を挙げている。そして、キャリア教育の主な推進指標として、表1のようなものを掲げている。

表1 山口県キャリア教育推進指標

山口県の小学校では、第4学年になると、「二分の一成人式」（以下「1/2成人式」とする）が、総合的な学習の時間の学びと関連付けながら実施されることが多い。高学年を担任することの多かった筆者も、平成25年度は小学校第4学年の担任となり、小学校教師生活初めてで最後となる「1/2成人式」を実施した。

主な推進指標	基準値 (計画策定時)	最新値	H27末 目標値	H29末 目標値
「1/2成人式」や「立志式」を行っている公立学校の割合	小63.2% 中14.6% (H24)	小91.4% 中66.9% (H25)	増加させる	増加させる
体験的なキャリア教育(職場見学, 職場体験活動, インターンシップ, 大学・企業訪問等)を実施した公立学校の割合	小100% 中100% 高90.7% (H25)	小100% 中100% 高94.5% (H25)	小100% 中100% 高100%	小100% 中100% 高100%

(「平成27年度山口県教育推進の手引き」山口県教育委員会, p. 26, 2015)

平成25年度の勤務校¹⁾においても、「1/2成人式」は恒例の行事となっており、第4学年になると、どの学級においても、保護者から「『1/2成人式』を実施する期日を教えてほしい」という問い合わせが多数ある。「1/2成人式」というイベントに対する期待の大きさが伺われるとともに、毎年行われるものであるという前提で、新年度がスタートする。子どもたちも、保護者と同様の反応を示す。

「1/2成人式」は、子どもや子どもの成長にかかわってきた人々にとって、成長を実感するとともに、未来を展望できる有意義なイベントである。しかし、これまで筆者が敢えて実施しなかった理由は2つある。

まず、これまでも第4学年を担任したことはあったが、「1/2成人式」とは違った学びの場の開発に力を注いでいたというのが理由である。「1/2成人式」が山口県の公立小学校で実施されることが多くなってからは、山口大学教育学部附属光小学校に勤務²⁾しており、キャリア教育にかかわる他の単元を開発し、その単元の学びが子どもの今後の在り方や生き方の道しるべとなるようにしてきたからである。

また、「1/2成人式」の内容が、学芸会的になっている場合もあり、その練習のみを総合的な学習の時間にあてるとするのは、探究的学びを保障することをねらうという趣旨からそれてしまうと考えていたことももう1つの理由である。

先にも述べたが、保護者の「1/2成人式」に対する期待は大きい。子どもや保護者が楽しみにし、有意義だと感じている恒例行事を実施し、子どもや保護者の期待に応えることは学校運営上大切にしなくてはならない視点である。筆者自身、「1/2成人式」を否定しているわけではなく、「1/2成人式」と関連付けられた総合的な学習の時間が、当日の出し物の練習だけに終わらず、子どもが、自分の今や過去を見つめ、未来への展望を自分なりにもっていく過程を大切にしたいという学びの場を開発する必要性を感じていたのである。

1. 研究の目的と視点、方法

本研究では、「1/2成人式」を迎えるまでの過程や終了後の学びの在り方に着目し、イベントで終わらない「1/2成人式」の在り方を模索していきたいと考えた。そこで、以下の手立てを行うことにした。

- ・自分の成長にかかわってきた人々の思いや願いにふれる手立て
- ・自分の成長を支えた存在に気付く手立て
- ・自分の「過去」と「現在」を比較し、成長を実感する手立て 等

そして、子どもの調査活動や自分見つめ等をもとに、「1/2成人式」のシナリオを作成することにした。

また、表2にあるように、D.E. スーパーのキャリアにかかわる発達段階において、「空想期」（4～10歳）の終わりが近づいた第4学年の子どもが、次の「興味期」（11～12歳）を迎えるための橋渡しとなるような子どもの発達段階に応じた単元を開発していきたいと考えた。そこで、好みが志望と活動の決定要因となる「興味期」の特徴をとらえ、その期に向かって成長を促すように、以下のような手立てを行うことにした。

- ・自分の好きなもの（人・物・出来事等）を見つめる活動
- ・好きなものに接している自分の心の動きや行動等について見つめる活動
- ・自分なりに目指したい「未来」の自分像とそこにたどり着くまでの道のりをイメージする活動

これらの手立てを円滑に行い、子どもが調査において、学びを深める情報を得て、研究の目的を達成できるようにするために、保護者との連携の取り方も模索することにした。

2. 単元の実際

2-1 「過去」の自分について見つめる

2-1-1 保護者との連携の取り方

表2 D.E. スーパーによるキャリアにかかわる発達段階

誕生～14歳	自己概念は、学校と家庭における主要人物との同一視を通して発達する。欲求と空想はこの段階の初期において支配的である興味と能力は社会参画と現実吟味の増大にともない、この段階で一層重要になる。以下、この段階の副次的期間である。
成長段階 空想期 (4～10歳)	欲求中心・空想の中で役割遂行が重要な意義をもつ。
興味期 (11～12歳)	好みが志望と活動の決定要因となる。
能力期 (12～14歳)	能力に一層重点がおかれる。職務要件（訓練も含む）が考慮される。

(三村, pp. 16～17, 2004.)

公衆小学校 第4学年 学年通信 平成25年12月20日(金) NO.13

ひまわり



総合的な学習の時間

「未来への架け橋」についてのお願い

～3学期の総合的な学習の時間の取組は～

3学期は、「1/2成人式」や第5学年への進級に向かって、自分の今までや今を見つめて、自分の成長や自分の今までを変えてくださった人、変えてくれた物、変えてくれた時間などについて見つめさせる総合的な学習の時間を計画しています。

小学校では、第2学年の生活科においても、自分の成長を見つめる学習があります。第6学年においては、総合的な学習の時間だけでなく、国語や様々な教科等で、小学校卒業という節目を迎えるにあたって、自分の成長を見つめ、これからの自分の在り方について考える学習が展開されます。

そして、第4学年では、二十歳の半分ということで、「1/2成人式」を行う学校が、この10年間で増えてきました。公衆小学校でも、例年、第4学年で「1/2成人式」を行っていることなので、本年も実施したいと思えます。実施は、2月の参観日です。何校時に行うかは、体育館の使用が、他学年もありますので（中学校の進学説明会）、今、計画中です、決まり次第お伝えします。

～インタビューへのご協力をお願いします～

「1/2成人式」というイベントを行うことも、自分の成長を実感させたり、お世話になった方々への感謝の気持ちを伝えるためには重要だと考えます。しかし、しっかりとそれらの活動が実感の伴ったものにするためには、そこに至るまでに、自分や自分を取り巻く様々な人・物・出来事などについて見つめておく時間の確保が重要だと考えます。

そこで、子どもたちには、冬休みの間に、おうちの方々に小さい頃の様子をインタビューしてくるという宿題を出していますので、お忙しい時期ではありますが、子どもたちの今後の成長に大いに関係する授業を展開していきたいので、ご協力の程、よろしくお願いたします。

あくまでも、お子様自身が、自分の成長を実感するため、変えてもらっている存在について見つめるために用いる情報ですので、プライバシーに関することには配慮します。

～子どもたちのインタビュー内容について～

子どもたちは、例えば、以下のようなことを質問するようになると思います。

【インタビュー例】

- ★名前の意味
- ★小さい頃のエピソード
 - ・心配したこと
 - ・びっくりしたこと
 - ・喜んだこと
- ・好きな遊び
- ・お気に入りの物
- ・など

- ★4年生になった今、成長したなあと感じるどころ
- ★これから期待すること

子どもたちには、自分の成長にかかわってくださった方にインタビューするように伝えてあります。年末年始、おじいさんやおばあさんにも会う機会がありましたら、保護者の皆様だけでなく、「おじいちゃん、おばあちゃんたちにも聞いてみよう！」という気持ちになるかもしれませんので、よろしくお願いたします。

子どもたちには、インタビュー内容やまとめ方などについて指導して、冬休みを迎えたいと思えます。

しかし、いざ冬休みに入って、どのようなことを具体的に聞こうかと、子どもたちが悩んでしまったりいけませんので、学年通信以外にも、インタビューのやりとり例のプリントを配布しますので、参考にしていただけたらと思います。









図1 「1/2成人式」の意図やインタビュー実施のお願い等を伝える学年通信

図1は、「1/2成人式」の意図やインタビュー実施のお願い等を、保護者に伝えるための学年通信である。学校からの各種通信を活用し、学校における教育の意図、担任の思いや願いを伝え、保護者との協力体制をつくり、共に子どもの成長をサポートできるようにしていった。

2-1-2 追求を深めていくための内容や方法等の見える化

学年通信や学級通信等を用いて、単元のねらいや教師の意図、ねらいを達成するために必要な情報等の見える化を図った。通信によるお願いや学校における子どもへの指導は、通常の手立てである。しかし、それだけでは一人ひとりが学びを充実させるために必要な情報を得ることができない場合もある。そこで、図2の文書も配布し、学校において、子どもに最低限必要な質問事項を把握させ、家庭においても、保護者がどのような内容について、どの程度の具体性をもって反応したらよいか、とらえることができるようにした。



ぼく・私の未来を切り拓く

インタビューメモ (例)

学年主任藤上の子どもの頃のインタビューを想起して例に挙げています。

4年(2)組(28)番 名前(ふじ上 真弓)

★名前の意味

私の「真弓」という名前には、どういった意味があるの？
だれがつけたの？

教えてくれた人
お父さん

実は、私の好きな女優さんの名前が「真弓」だったので、そんなステキな女性になってほしいなど、まずは、思ったからだよ。

でも、ただそれだけで名前を付けたのじゃないよ。「真弓」の「真」は真実。真実に向かって、弓矢をひくように、真っ直ぐに真っ向かってほしいという願いをもって付けたよ。自分の夢を見つけたら、そこを目指して、しっかりと歩んでほしいと思ったしね。

名前は、お父さんだけで考えたのではなくて、お母さんとも、よく相談した上で決めたよ。

★小さい頃のエピソード

小さい頃に、心配したことがあったら教えて！

まず、1つめは、**ガラスヘッドスライディング事件！**
おばあちゃんちで、休日くつろいでいたら、真弓が急に取っこんだおふとんの上へヘッドスライディング。

教えてくれた人
お母さん

それだけならよかったんだけど、その勢いで、ガラス戸にガッシャーン。
目の上とほほを切り、血まみれになったの。あと何mmかずれていたら、失明していたかもしれないと思うと、ぞっとしたよ。

ほほは7針もぬったから、あとが残らないかと心配もしたよ。将来、ほほのきずあとで、なやむことはないかなとも心配した。

部活の指導で、休日出勤していたお父さん(中学校教師)は、「なんでこんなことになったんだ！」と、当分おこっけて、大変だった。

★好きだったこと

私は、どんなことが好きだった？

本を読んだり、読み聞かせを聞いたりするのが、大好きだったよ。

お気に入りの、「桃太郎」で、ねる前に読むと、何度も何度も、「もう一回！」とせがんだよ。

その他にも、よく歌を歌っていたよ。その様子を録音しているから、聞いてみる？

遊びで気に入っていたのは、砂遊び。だから、おばあちゃんちに砂場をつくったよ。写真にも、真弓が砂遊びしようところが、とってあるじゃろ。

教えてくれた人
お父さん

2つめは、**不登園**。
保育園に行くのがいやで、連れて行こうとすると、泣きさけんで大変だった。たくさん人がいるところに行くのがいやだったようだし、自分にできないことをやらなさいといけなから行きたくなかったようだよ。

おばあちゃんにあずけたときに、「まみちゃん、みんなのように折り紙がおれんから、行きとうない。」って、言ったらしいよ。

連れて行こうとすると、泣き叫ぶからかわいそうになるし、自分は仕事に行かないといけないし、こっちが泣きたいような気持ちになったよ。

でもね、小学校2年生になったら、お父さんもお母さんもお迎えにいけなから、妹のさおりを保育園に毎日お迎えに行くようになるまで、しっかりしてくれたので、安心したよ。

お母さんとの連絡ノート(家に帰ってもだれもいないので、「お帰る、まみちゃん、さおりちゃん。今日の、～はどうだった？おやつは、～にあるから食べておいくださいね。母ちゃんより」というやりとりをするノート)に書いてあることをよく守って、さおりのめんどうをよくみてくれたものね。

★願っていること

将来になってほしい職業は？

お父さんとお母さんと同じ、先生になってくれるとうれしいなと思うのだけど、まみちゃんはどうなの？

教えてくれた人
お父さん

子どもたちは、主に、ここに例に挙げたようなことをインタビューするのではないかと思います。

お忙しい時期だとは思いますが、ご協力の程、よろしく願っています。

4年生担任 一同

★成長したなと思うところ

どんなところが成長した？

1, 2年生の時に、参観日に行ったら、まどの外ばかり、ぼーっと見ていたから、だいたいぶかかと心配していたよ。

でも、今は、自分で考えて行動できるようになったし、負けずらいなところも出てきて、がんばっているところがすごいと思うよ。

本が好きなのは、うれしいけど、読み過ぎだなと思う時があるから、暗い所で読んだらダメだよ！姿勢良く読んでね。視力が心配です。

教えてくれた人
お父さん

図2 子どものインタビューに対する保護者としてのかかわり方を見える化するための文書

図2の文書は、筆者自身が小学校第6学年の頃に、両親にインタビューをしたことや子どもの頃の記憶等をもとに作成した。

表3は、図2で例示した課題解決を図る上で最低限必要な質問事項と、その質問をする意図である。

表3 質問事項の例とその質問をする意図

質問事項の例	質問をする意図
命名の意味	・自分の名前の意味に込められた家族の思いや願いに気付かせる
小さい頃のエピソード	・今に至るまでに、色々な出来事があり、そのたびに、家族も喜んだり、心配したり、悩んだりしながら、自分を見守り、支えてくれていたことに気付かせる
小さい頃好きだった物・出来事等	・好きな物や出来事等が変容することによる成長に気付かせる ・自分がこだわり続けている物・出来事等に気付かせる ・人意外にも、自分を支えている存在があることに気付かせる
成長したと思うこと	・自分では気付くことができない自分の成長を家族に教えてもらうことで、自己肯定感を高める
願っていること	・家族が、今後の自分の成長を楽しみにしてくれていることに気付かせる

インタビュー調査をし、自分の成長にかかわってきた人々の思いや願いにふれることで、自分のことをかけがえのない存在として接してくれている家族や身近な人々の存在に支えられながら、今の自分があることに気付くことができるようにした。

また、複雑な家庭環境の子どももいるため、一人ひとりの子どもが置かれた状況に配慮し、誰もが周りの人々とのかかわりの中で、自分の成長を実感できるようにした。

2-2 「現在」の自分を見つめる

まず、子どもたちにとって、自分の「過去」や「未来」よりは見つけやすいと考えられる「現在」について、図3のようなワークシートにまとめさせた。

「ぼく・わたしのみ力」の部分は、自分ではなかなか見いだせない場合があるので、友達に聞きながら記述する子どもが多数いた。

「自分が気に入っている人・物・出来事など」「自分をささえている物・出来事・時間など」を記述させた意図は、自分の成長や自分の「現在」を支えている人・物・出来事などに気付くことによって、周囲への感謝の気持ちが芽生えたり、自分の心が安定するもととなるものに気付いたりすることができる考えたからである。そして、自分を支えている人・物・出来事等が存在していることに気付けた子どもは、今後、もしも、辛いことに出会ったり、壁にぶち当たったりした際にも、それらの存在を頼りにしたり、励みにしたりする等して、前に歩み出すことができるようになると思ったからである。

また、「気に入っている」「好き」と思っている存在を見つめさせることで、表2にも挙げたように、これから「空想期」から「興味期」に入っていく発達段階の子どもたちに、自分が興味・関心をもっている存在について自覚させたいと考えた。

図3 A児の「現在」見つけワークシート

2-3 「過去」「現在」見つめをもとに、「未来」に自分が歩むであろう道筋をイメージする

2-3-1 未来への道イメージマップを作成させる意図

「空想期」まっただ中、「興味期」へとさしかかった発達段階にいる子どもたちにとって、将来就きたいと思っている職業は、明確である必要はないと考えた。

「就きたい職業が明確になっている子ども」、「なりたい大人像はもっているが、就きたい職業は決まっていない子ども」、「自分の好きなことと関連した職業に就きたいと思っている子ども」等、様々であるが、第4学年の発達段階において、自分の持ち味や能力と選んだ職業の整合性を問うことはふさわしくないと考えた。「就きたい職業が明確になっている子ども」にとっても、その職業に就くために必要な資質や能力等を身に付ける方途ばかりを追求させる学びもふさわしくないと考えた。第4学年の段階においては、自分の「未来」に向けての多様な可能性を見いださせるような学びがふさわしいと考えた。

しかし、これから子どもたちが成長していく過程において、壁や困難等が立ちはだかることも少なからずあるのは事実である。そのために、未来への道イメージマップには、「もしも、困った時には？」という枠を設け、プラスのことだけでなく、マイナスのことに対する対処の仕方についても、考えさせた。図4と図5は、A児とB児が記述したものである。

マイナスかと思えるような時において、自分の「未来」に向けて前向きに歩み出すための手立てをイメージさせておくことは、今後の子どもの日常生活を充実させていくためにも、必要なことであると考えた。自分なりの壁や困難等の乗り越え方をとらえておくことで、自分の夢が一旦破れてしまったとしても、別の道筋からそこにたどり着こうとするエネルギーや方途を見いだすことができるようになると考えた。道が閉ざされてしまったとしても、全く別の道を自分の決断で歩むことになったとしても、自分の在り方・生き方に誇りを持ちながら、納得した人生を歩むための指針を見いだしていくことができるようになると考えた。

未来への道イメージマップを一人ひとりの子どもが作成し、「1/2成人式」当日、会場となる体育館に図6のように掲示した。そう

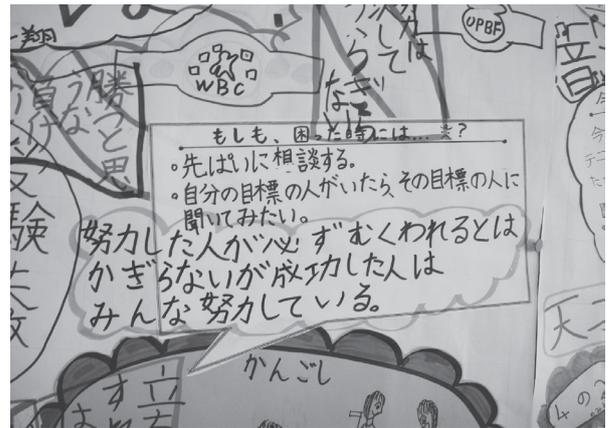


図4 A児の記述

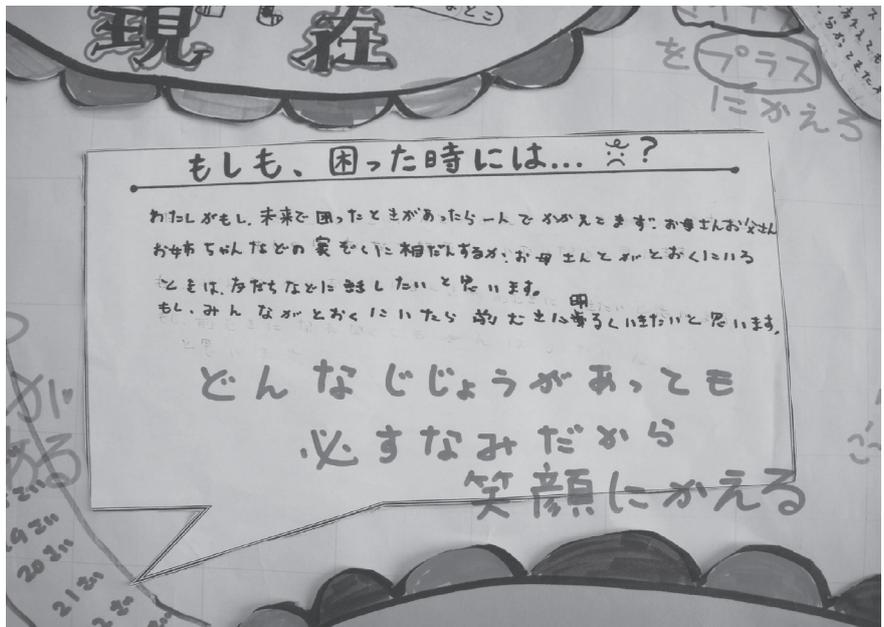


図5 B児の記述



図6 「1/2成人式」当日の会場掲示

することで、保護者や地域の人々、学校関係者に、「1/2成人式」までの子どもの追求の様子や、10才の子どもとしての「未来」に対する思いや願い、これまで支えてくれた存在への感謝の気持ち等が伝わっていくようにした。総合的な学習の時間の時間において、このような表現物をグループで作成する機会が多いが、一人ひとりに1枚の模造紙にまとめさせた。一人ひとりにまとめさせた理由は、自分の人生の主人公は自分自身であるとともに、学びの主人公も子ども一人ひとりではなければならないと考えるからである。参観しにきた保護者にとっても、誰かが頑張る「1/2成人式」ではなく、自分の子どもの成長を実感できるものとならねば、実施する意味や価値は薄らいでしまうと考えた。



図7 未来への道イメージマップを作成している子どもたち

子どもたちは、図7のように、友達のまとめ方を参考にしたり、互いの持ち味や成長について話し合ったりする等しながら、未来への道イメージマップを仕上げていった。

2-3-2 未来への道イメージマップの記述から

図8は、C児の未来への道イメージマップである。C児は、毎日の自主学習においても、これまで学んだ説明文の文章構成や書きぶりの工夫等を生かしながら、昆虫についての説明文をいくつもまとめて提出しているほどの昆虫好きである。写真5を見ると、「今がんばっていること」「現在の自分を支えている存在」「未来の自分の姿」等、至る所に大好きな昆虫が登場している。C児は、未来への道イメージマップをまとめることで、昆虫は自分とは切り離せない存在であることを再確認していったことが分かる。

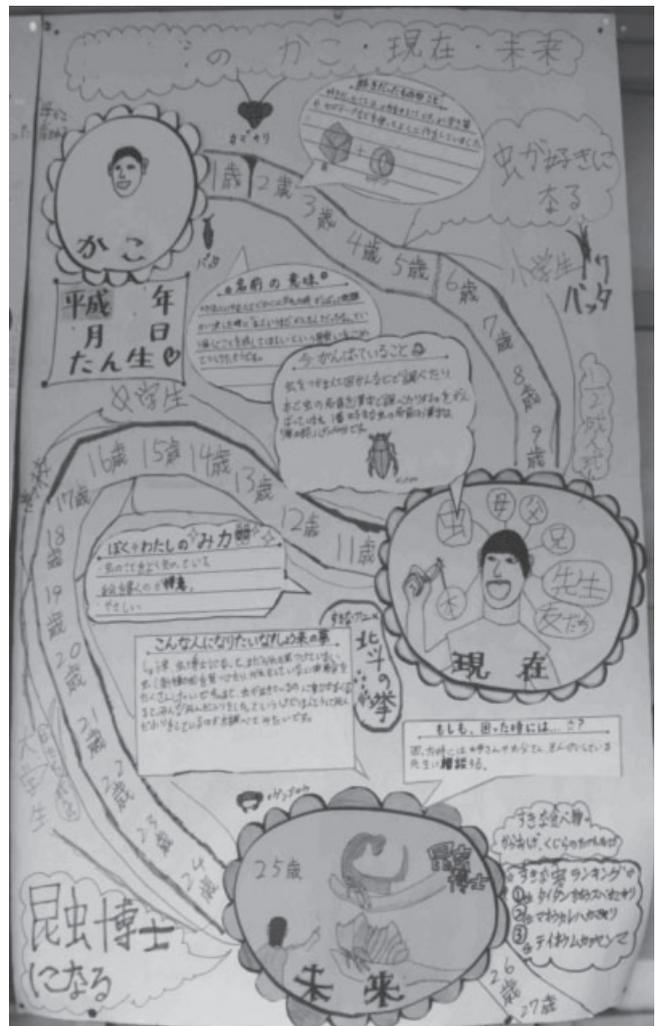


図8 昆虫は自分とは切り離せない存在であることを再確認したC児の表現物

図9は、A児の未来への道イメージマップである。A児は、日常生活において、どのようなことにも一生懸命自分と向き合いながら取り組むことができる子どもである。図9を見ると、自分が目指したい姿を明確にもつとともに、自分の支えとなっている言葉を数多くもっていることが分かる。また、目指す姿にたどり着くまでに出会うであろう困難をイメージし、そうなった時に自分の支えとなる「負けた分だけ強くなれる」「マイナスをプラスに変える」という言葉も挙げながら、なんとしても自分の在りたい姿に近づきたいと思っていることが分かる。このことから、A児は、前向きな気持ちを持ち続けた人生を歩みたいという思いや願いを強くもっていることが分かる。

2-4 「1/2成人式」当日の内容の吟味

2-4-1 発表内容の決定について

「1/2成人式」の内容は、歌を歌ったり、将来の夢を宣言したりするだけのものではなく、子どもたちが追求してきたこと、それをもとに感じたり分かったりしたこと等を盛り込んだり、これまでの成長の過程が伝わったりする内容にした。そして、クラスごとに調査の発表内容・方法は工夫できるようにした。筆者が担任した2組においては、株式会社クラレ（2013）の「2014年版新小学1年生の『将来就きたい職業』、親の『就かせたい職業』」の分析、1組は、これまでのエピソード、3組は、成人式を迎えた20才対象のなりたい30代像についての調査、4組は、4学年の子どもも全員対象の将来なりたい職業についての調査をもとに、発表内容・方法を考えていった。

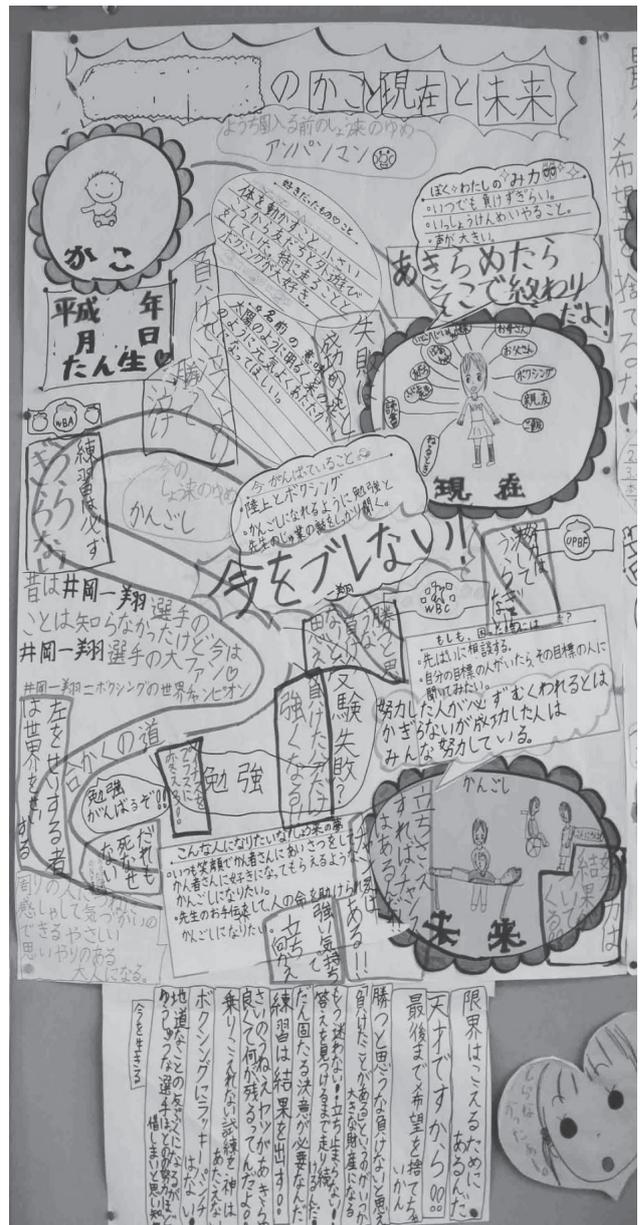


図9 前向きな気持ちを持ち続けたいと願うA児の表現物



図11 筆者の学級の子もたちの発表の様子

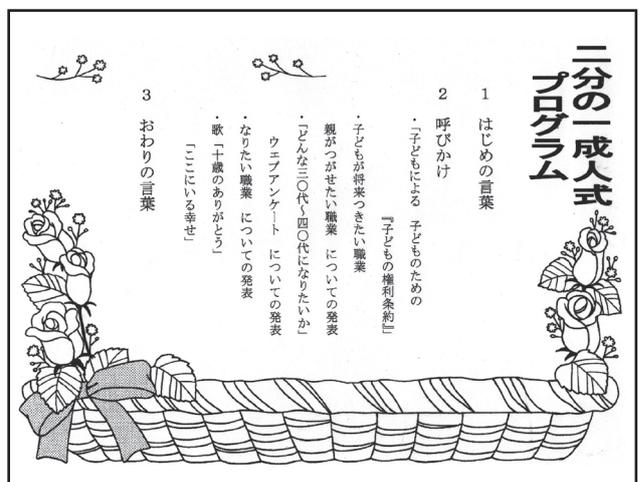


図10 保護者に配布したプログラム

2-4-2 手紙のやりとりで、思いや願いを伝え合う場の設定

「1/2成人式」終了後に、家族からの手紙を受け取ったり、家に帰って、家族に手紙を渡せたりできるように準備し、日頃は、なかなか伝えることができない思いを伝え合うことができるようにした。

2-5 「1/2成人式」を迎えるまでの自分の追求見つけ

「1/2成人式」の後には、迎えるまでの自分の追求を見つめさせた。



図12 D君の「今の自分をささえている存在」

図13は、D君のワークシートである。

D君の記述を見ると、これまで自分の成長にかかわった人々に対して感謝の思いをもち、それらを自分の姿や行動で伝えようとしていることが伝わってくる。「現在」「未来」の部分の記述を見ると、「現在」の自分が支えられている存在に気付くとともに、自分の夢を実現させるために必要なことについて、少しずつ目が向いてきていることが分かる。

表4 筆者の学級の子どもたちが考えた発表内容の一部を抜粋したもの

<p>ちなみに、ぼくたちが入学した時の、新入児4000人その親4000人へのクラレの調査によると子どもが将来就きたい職業、親が就かせたい職業は、次のようになっていました。 みなさん、どのような結果になっていると思いますか？それぞれの5位までを紹介します。</p>
<p>まず、子ども部門です。 男の子の5位は、大工。4位は、消防士。3位は、運転手。運転士。2位は、警察官。刑事。1位は、スポーツ選手でした。 テレビでよく目にしたり、日頃出会ったり、身近な職業が多いですね。また、制服がかっこよかったり、物をつくったりすることにも憧れているのでしょうか。</p>
<p>女の子の5位は、看護師。4位は、教員・保育士。3位は、芸人。タレント・歌手・モデル。2位は、花屋。1位は、パン屋・お菓子屋・ケーキ屋・パティシエでした。 パン屋・お菓子屋・ケーキ屋・パティシエは、なんと16年連続1位だし、それを選ぶ人数も多いです。人のお世話をするような職業も、女の子は多かったです。</p>
<p>次に、親が就かせたい職業についてです。 男の子の5位は、大工。なんと、子どもと一致していますね。4位は、会社員。3位は、医師。2位は、スポーツ選手。1位は、公務員です。</p>
<p>女の子の5位は、薬剤師。4位は、教員。保育士。3位は、パン屋・お菓子屋・ケーキ屋・パティシエ。2位は、公務員。1位は、看護師です。</p>
<p>子どもと大人の考えを比較してみると、子どもは、あまり現実を見なくて、自分の身近なものやテレビではやっているもの等に影響を受けやすいということが分かりました。親は、安定していたり、資格が必要だったり、給料が高かったりしそうなものを選んでいました。 子どもの将来のことを、心配していることが分かりました。私たちのことを心配してくれていることは、とても分かりませんが、もう少し、子どもの夢にも目を向けてくれたらうれしいです。</p>

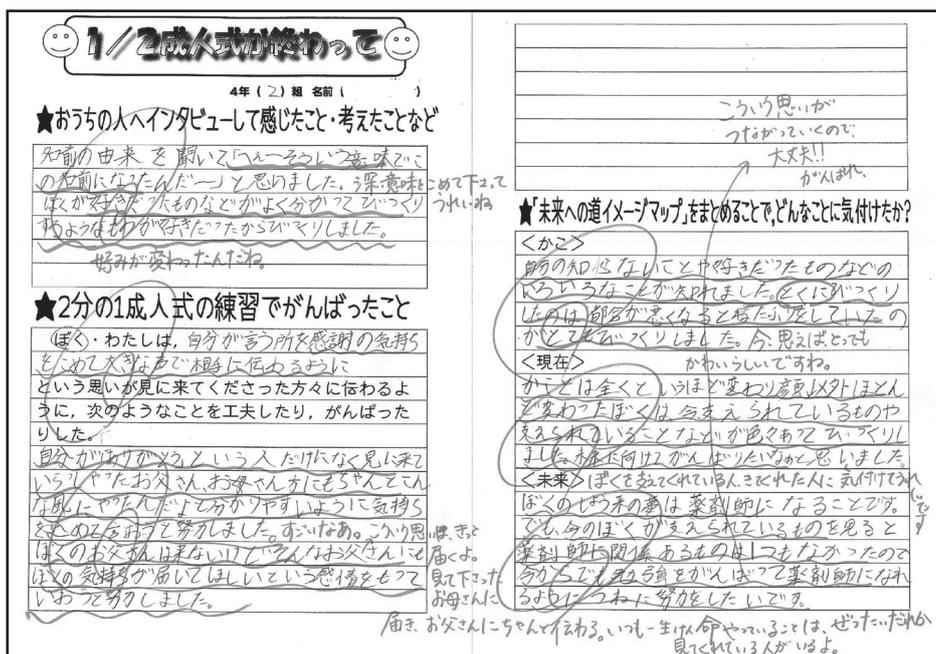


図13 D君のワークシート

図15は、F児のワークシートである。

「『未来へのイメージマップ』をまとめることで、どんなことに気付けたか？」の記述を見ると、この単元の学びを通して、自分の魅力がたくさんあることや、自分は多くの人・物・出来事等に支えられていることに気付いていったこと、小さい頃からずっと幼稚園・保育園の先生になりたいと思っていたことに驚きを感じていることが分かる。

F児は、「子どもたちの悲しみも笑顔にできる笑顔でいっぱい幼稚園・保育園の先生になりたいということに気が付いた」と記述しており、自分が目指していきたい像を、具体像として明らかにしていったことも分かる。

おわりに

小学校における特別活動と総合的な学習の時間の目標を比較してみる。

表5 特別活動と総合的な学習の時間の目標

特別活動の目標	総合的な学習の時間の目標
<p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、<u>集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする</u> ⁽⁷⁾ 自主的、実践的な態度を育てるとともに、<u>自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う</u> ⁽⁴⁾。</p> <p>文部科学省 (p. 8, 2008)</p>	<p>横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、<u>学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む</u> ⁽⁷⁾ 態度を育て、<u>自己の生き方を考えることができるようにする</u> ⁽¹¹⁾。</p> <p>文部科学省 (p. 10, 2008)</p>

* 下線は筆者

表5の下線を引いた部分は、特別活動と総合的な学習の時間に共通している部分であると考えられる。共に、協同的な学びの中で、自己の生き方や自己の生かし方等について考え、社会の中に自分なりの居場所を見いだしていくことをねらう。しかし、それらをねらうための手段が異なり、特別活動においては、「望ましい集団活動を通して」、総合的な学習の時間においては、「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して」となっている。また、育てる資質や能力も少し異なり、総合的な学習の時間においては、各教科等で身に付けてきた知識・技能等を活用し、磨きをかけていくことも求められる。

子どもたちは、特別活動の学びの中で、同世代の仲間と共に、「1/2成人式」を企画・運営し、役割を分担していった。その学びの過程の中で、自分や仲間の持ち味やこだわり等の生かし合いながら、よりよい表現を生み出していく喜びを味わっていた。

また、総合的な学習の時間の学びの中で、「1/2成人式」を迎える年齢となった自分を支えてきてくれた存在、自分の興味・関心をもっていること等について見つめることで、身近な人々や存在に対して、感謝の気持ちをもつとともに、今後の自己の生き方についても思いをはせることができた。

2つの教科等を関連付ける際には、どちらにとってもwin-winな関係になるように計画・実践していくことが大事である。そうしないと、どちらかが、片方の下請けのようになってしまう。それでは、本来のそれらの時間の目標を達成することはできないと改めて実感した。

謝辞

本稿をまとめるにあたり、共に「1/2成人式」に向けて子どもたちを指導して下さった平成25年度同学年の三原由佳里先生、吉田幸司先生、橋本彩衣子先生、特別支援学級の國井理江先生、井生典子先生、久保浩美先生に、心より感謝申し上げます。

注

- 1) 筆者は、平成21年度（2009年4月）から、25年度（2014年3月）まで、山口県下松市立公集小学校に勤務する。この実践は、25年度（2013年12月～2014年2月）に、第4学年担任として実施したものである。
- 2) 筆者は、平成13年度（2001年4月）から、平成20年度（2009年3月）まで、山口大学教育学部附属光小学校に勤務する。

引用・参考文献

- 株式会社クラレ：<http://www.kuraray.co.jp/enquete/occupation/2013/>、「2013年版新小学1年生の『将来就きたい職業』,親の『就かせたい職業』」,2013.
- 都留覚、藤上真弓：「プロ教師に学ぶ総合的な学習の時間授業の基礎技術」,東洋館出版社,pp.94～95,2012.
- 三村隆男：「図解 はじめる小学校キャリア教育,実業之日本社,pp.16～17,2004.
- 文部科学省：「小学校学習指導要領解説特別活動編」,東洋館出版社,p.8,2008.
- 文部科学省：「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」,東洋館出版社,p.10,2008.
- 文部科学省：「小学校キャリア教育の手引き<改訂版>」,教育出版,2011.
- 諸富祥彦：「『7つの力』を育てるキャリア教育」,図書文化,2007.
- 山口県教育委員会：www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50100/dctptebiki/h23dctpguide.html、「平成27年度山口県教育推進の手引き」,p.26,2015.